



宸篤兒藥性論

五

ヤ 5
1029
3



1029
3

家篤兒藥性論卷五目次

○揮發衝動劑

薄荷

苗香

過泥子

默栗薩

迷迭香

刺賢堙爾花

○刺賢堙爾精

菩提樹花

薄荷水

苗香水

過泥子油

默栗薩水

迷迭香精

刺賢堙爾油

○刺賢堙爾精

○刺賢堙爾精

家篤兒藥性論 卷五



191-2010

寢篤兒藥性論卷五目次

寢篤兒藥性論卷六目次

○鎮瘧劑

艾 芸香

○芸香油 ○芸香醋

○芸香水

纈草

○纈草越幾斯

阿魏

○阿魏丁幾

護謨瓦

○護謨瓦爾拔奴謨哥魯加

羯布羅

○羯布羅丁幾 〇瓦爾拔奴謨哥魯加

麝香

○製麝香

葛私多儂謨

○葛私多儂謨丁幾

琥珀
加耶布的油

實百爾油
亞的兒
硝石的兒
忽叟
布蘭度
鎮碎
痛石劑

甘硝石精
硝石的兒
○補說

過設印亞的兒
硝砂精
○硝砂揮發膏
○硝砂加過泥子砂加燒酒

○鹿琥精
○鹿角精
○鹿角鹽
○鹿角華精
○硝砂華

毘斯密篤

亞鉛華

硝銅礬

硝酸銀

○銅硝鹽酸水

家篤兒藥性論卷六目次



家篤兒藥性論卷五

和蘭

漢臣 家篤兒 著

小倉

洞海林疆健卿 譯補

揮發衝動劑

フスチラチア、ホラチリア、
フスチラチア、ホラチリア、
フスチラチア、ホラチリア、
フスチラチア、ホラチリア、

蘭

揮發衝動劑ハ其力速ニ全身諸器殊ニ

神經ニ彌漫メ揮發衝動スト雖久シク

體中ニ保持スル下能ハズ藥力醒メ来

レバ、衰弱隨テ生ズ。是、保固強壯劑ニ異ナル所ナリ。○揮發衝動ノ諸藥、効力各勁緩ノ別アリ。由テ初頭先、其緩性ノ者ヲ舉ゲ、逐次其勁性ノ者ニ及ハシトス。

○主治括套

第一 大病亡液、生力費耗等ニ由テ生ズル所ノ身體ノ虛憊羸瘦、毫モ隱伏、焮衝慢性熱等ヲ合併スルノ者、及ヒ弛緩ニメ知覺遲鈍質ノ者。

第二 生力減衰メ、良能幾里濟斯ヲ啓發



シ得ザル者

第三 粘液質ニメ諸官能遲怠シ、動スレ

バ慢性病ニ陥ラントスル者

第四 彼此ノ機關萎頓シ、官能之ニ因テ平均ヲ得ズ。或ハ壅閉或ハ泌液過度ノ症ヲ生シ易キ者

第五 全身或ハ局處ノ生活力熄滅スル者、乃、麻痺不遂、假死等ノ如キ是ナリ

○反症總說 是ヲ用井テ害アル事、件ハ已ニ保固強壯藥ノ條ニ說與セル

ガ如シ。蓋生カ極虚メ。衝動劑ニ堪ヘズ。却テ是ガ為ニ絶滅セントスル者ニハ之ヲ禁ス。何者其可否ヲ辨セズ。漫然トメ之ヲ長服セシムルハ。其疲弊セル者一旦之ニ由テ發揚スルカ如シト雖其力遂ニ久シク自持スルヲ能ハズ。其弊竟ニ真ノ衰弱劑ト歸ヲ同シ。虚憊始メニ倍メ。生々ノ機關竭絶ヌルニ至レバナリ。

○用法標準

- 第一 揮發衝動藥ヲ用ウルニハ先其緩性ノ者ヨリ始メ。漸ク移シテ勁性ノ者ニ及フベシ。初頭必勁性者ヲ用ウルヲ禁ズ。
- 第二 時々藥品ヲ更換スベシ。否ラザレバ患者其刺衝ニナレテ効ヲ得ルヲナシ。
- 第三 時々藥ヲ用ウルノ部位ヲ變ズベシ。
- 第四 此劑ヲ用井テ其功已ニ全成スル

者ハ漸ク又緩性ノ者ニ轉回スル。尚
前ノ緩性ヨリ勁性ニ移ルガ如クスベ
シ

第五 既ニ衝動劑ヲ用井其景况稍保持
強固シテ害ナキ者ハ乃保固強壯藥ヲ
伍用スベシ

薄荷 シメンテタ蘭

數種アリ、其中藥用ニ供スル者一ヲコロイヌ
シメンテ薄荷ノ一ヲペーペル、シメンテ薄荷尋常ト
云、共ニ和蘭ニ産ス。味辛温苦ニメ、ホ木ニ少ク龍

腦ノ氣アリ、口中爽涼ヲ覺エ竄透ノ佳香アリ

○揮發鎮痙健胃驅風通經ノ効アリ

第一 道痙攣諸病胃痙攣性ノ嘔吐攣急疝
及ヒ風氣ヨリ發スル所ノ疝痛等ニ佳ナリ

第二 胸腔諸臟痙攣諸病喘急百日咳等ノ痙攣ヨ
リ發スル者ニ良ナリ

第三 依利昆垓兒子宮病ノ諸症全神經ノ虚憊眩
暈神經頭痛ニ驗アリ、殊ニ其病消食機ノ衰弱

ヲ兼ル者ニ用ウヘシ

第四 神經熱腐敗熱殊ニ其熱腸胃攣急ノ諸症ヲ

者ニ比スレバ。甘味多ク香氣烈ニメ。其形挾長少シク拗曲シ。質粗糙ニメ。淡黄色ナリ。○苗香根ハ大サ指ノ如ク。長クメ枝條ヲナシ。色黄白ナリ。生ナル者ハ芳香アリ。乾ケル者ハ香ヲ脱ス。○興奮鎮痙驅風。利尿祛痰ノ効アリ。○小兒諸病殊ニ其因ヲ酸敗液ニ資テ。腹痛泄瀉等ヲ合併スル者ニ用井テ一良藥トス。又能ク肺胃等ノ粘液病ヲ治ス。○根ハ殊ニ利尿ノ効アリ。○子根共ニ浸劑トナシ用ウ。子ハ二錢ヨリ三錢至根ハ半弓至ヲ浸メ。液六弓ヨリ八弓ヲ取

○苗香水ニアキリ。ローニ弓ヨリ八弓至孟屈設爾ニ和シ頻服ス。○苗香油ニキウム。フニ滴ヨリ六滴至白糖ニ滴シ。或ハ丸劑ニ加ヘテ頻服ス。○過泥子アセミナ。アニシド蘭。林氏ノ所謂ピンピ子ルラ。アニシムノ實ナリ。陀入多國西里牙同等ニ多ク産ス。○味甘氣烈性効大ニ苗香ニ類ス。殊ニ驅風劑トシ用井テ。風氣ヨリ發スル所ノ疝痛ニ良ナリ。又旃那葉

ニ伍用メ能ク之レガ為ニ起ル所ノ腹痛ヲ防
ク○散劑。十八ヨリ三十ハ至頻服ス。浸劑ハ三
錢ヨリ半弓至ヲ浸メ。六弓ヨリ八弓ノ液ヲ取

○^{アル}渴泥子油^{オレウム}。二滴ヨリ六滴至白糖若

クハ孟候設爾若クハ九劑ニ加ヘ頻服ス

○^東大茴香^{ステル}。ア子イステル^{古ム}。羅アリ。是
東印度地方ニ産スル樹實ニ入。實内ニ仁アリ
不詳○主治本條ニ同メ其力勝ル○分量方法
モ亦異ナルナシ

黙栗薩^{シトル}。バメリッサ^{コロイ}ト蘭

佛郎斯ノ南地ニ産スル^{メリッサ}オスシナリス

草ナリ○味。苦辛ニメ枸櫞實ノ如キ透竈ノ香

氣アリ○保固。興奮鎮痙。驅風。通經ノ効アリ○

依剝昆堙爾家或ハ子宮病家ノ輕易神經諸症

眩暈昏冒。心悸動等ニ用井テ屢驗アリ○通經

ノ効ハ世間通知スル所ナリ。而メ其通經ノ効

ヲ推スニ別ニ一種ノ妙効アルニ非ズ。只其保

固鎮痙ノ効アルヲ以テメ故人ニ○浸劑ハ一
弓ヲ以テ浸メ八弓ノ液ヲトル○外用ハ香竈

藥劑ノ品ニ伍用スル薄荷ノ如シ

○默栗薩水アタメニ弓ヨリハ弓至孟屈設

爾ニ和シ用ウ

○複方默栗薩精ススアリテスメリツサコシモラリ

ス○アタメカ
メリツサコシモラリ

默栗薩 枸椽皮 肉豆蔻 胡荽子 丁子

桂 右六味ヲ以テ製スル方劑ナリ○胃

虚神經虚憊神經性或ハ痺麻質斯性ノ頭痛攣

急麻木不仁等ニ用ウ○内外共ニ一錢三錢ヨ

リ半弓ニ至ル

迷迭香ハバロリスマリニ

一名「ロスマリ」オヲシナリスト云味香竈

ニメ衝動ス新鮮ノ者ハ竈透ノ佳香アリ○性

効主治默栗薩ニ同シ

○迷迭香精ススアリテスメリツサコシモラリ 外用ハ

一弓ヨリ三弓迄ヲ以テ不潔ヲ洗滌シ惡臭ヲ

消除ス然レ氏今世ニ至テハオウテコロニ

水ヲ稱用スルニ由テ人好シテ用ウルナシ

古人迷迭香精ヲ以テ翁瓦利亞水ト名ク

刺賢垣爾花ラフロリスマリニ

歐羅巴ノ南地ニ産スル小灌木ヲ云フ。カンドルリ、オフ、スピカノ花ナリ。此樹和
 蘭ニ在テ又多ク花圃ニ栽植ス。○花ハ味苦温
 ニメ芳香ナリ。○性効主治。迷迭香、麝、栗、薩等ニ
 同シ。○浸劑一錢ヨリ二錢至。浸メ八ヨリト
 ○刺賢埵爾油。オレウム、ラ。一滴ヨリ五滴至。
 散劑或ハ孟屈設爾ニ和ス。
 ○斯必加刺賢埵爾油。オレウム、ス、ビカ、カ、
 外用諸方皆此油ヲ處ス。
 ○刺賢埵爾精。ス、ヒ、リ、ヒ、ラ、ス、ラ。不潔ヲ洗滌シ

惡臭ヲ消除ス。一ヨリ四ヨリ至。○主治。オウ、テ、
 コロニ、山、水ニ同シ。
 菩提樹花。ワ、ロ、レ、ス、チ、リ、ア、
 橙花ノ如キ佳香アリ。○興奮鎮痙ノ効アリ。古
 人多ク癩癩ニ稱譽ス。今殊ニ痙攣搐掣状ノ小
 兒諸病ニ。此花ノ蒸餾水。菩提樹花水。○ア、ク、一
 三ヨリ四ヨリ至。孟屈設爾ニ和シ用ウ。
 橙花。ワ、ロ、レ、ス、チ、リ、ア、
 氣味苦ニメ。竄透芬芳。暈ヲ發セント欲ス。乾ケ
 ル者ハ香氣少シ。○是モ亦古人菩提樹花ト一

般癩癩ニ稱譽スト雖他ト等シク其功確實ナ
ラサルヲ以テ終ニ寥々トメ用ウル者ナキニ
至レリ○輓近ニ至テ橙花ノ蒸餾水橙花水○
羅ヲ以テ自餘鎮痙ノ品ニ伍ム子宮病痙攣病
自餘神經諸症ニ用ウ○一弓ヨリ二弓至若ク
ハ每次一食匙ヲ服ス

○橙花舍利別アウラニシス、フロリウム。 橙花水ニ
白糖適宜ヲ加ヘ舍利別ノ稠トナス此舍利別

味太佳好ナリ
丁子カリオピルリ、アロマチキ
コロイド、ナールゲレン、蘭

林氏ノ所謂カリオピルリス。アロマチキ。丁
別兒夫名ノノ所謂「エウゲニア、カリオピルラタ」
樹ノ蕾花ナリ。東印度殊ニ馬路古鳥新開同
等ニ産ス○丁子ヲ採収スルハ花將ニ開ント
スルノ前ニ摘採シ薰烟スル一二日ニメ日
乾スベシ○形針ノ如ク茶褐帶赤色ニメ芳烈
竄透辛辣微苦ナリ○上品ハ形大ニメ油多ク
色特ニ濃ナリ。下品ハ之ニ反ス○丁子ハ多ク
揮發竄透ノ油ヲ含ム其油水ヨリ重ク氣味丁
子ニ異ナラズ色淡黄經久ノ者ハ黯黄ニ變ス

○丁子ハ藥用ニ供スルヨリハ多ク庖厨ノ用ニ供スト雖間又消食機虛弱胃瘕疝痛等ニ用井テ良效ヲ奏ス○又能香竄藥劑ヲ製スルノ伍品トス○散劑五匁ヨリ十匁至油ハ每服ニ滴ヨリ四滴至白糖ニ和シ或ハ丸トナス

肉豆蔻

ニケス、モスカタ、ニカテ、ニカテ、ニカテ

○形卵圓ニノ稜アリ其質重ク外面灰白色或ハ茶褐帶白色内面黃褐色ト赤色ト錯雜メ

大埋石ノゴトシ氣味辛温芳香ニメ竄透ス○衝動辛熱驅風鎮痙ノ效アリ其効皆核中ニ含ム所ノ油ニアリ○消食機衰弱内臟粘膠風氣吐病泄瀉疝痛ニ效アリ又能ク他ノ藥劑ノ惡味ヲ消ス○多ク散トナシ用ウ一時若クハ一時半毎ニ五匁ヨリ一匁至

○肉豆蔻榨油

オレウム、エキシ、プロシム、モスカ

此物ハ

揮發油ト脂油ノ二物ヨリナル其色赤黃凝固メ勿擲茶石鹼ノ如シ氣味主治効能本條ニ同シ軟膏若クハ擦劑トシ用ウルハ一錢ヨリ二

錢至

○府利フリス羅蘭 府利ハ豆蔻核ヲ被覆セ

ル網状ノ内膜ナリ。黄色ニメ脂氣アリ。辛温芳

烈ナリ。○能ク消食機ノ虧損ヲ復ス。○散トシ

一ハヨリ十ハ至ヲ頻服ス。○府利ヲ蒸餾メ亞

的兒樣ノ芳香快美ノ油ヲ得ス。アレウム、マキ

次二滴ヨリ六滴至。頻服ス。

白屈林ハベキリム子シ蘭

麻爾忒斯ガ説ノ如ク「オコテア、ズキリ、マヨル

及ヒ「オコテア、ズキリ、ミノ此ト云ニ樹ノ實仁

ナリ。色襪列府ノ如キ赭色ニメ。一面ハ凹シ一

面ハ圓クメ隆凸シ。氣味香竄ニメ。差薩撒弗刺

斯或ハ肉豆蔻ノ如シ。○此豆仁ヲ散トナシ。一

錢ヨリ三錢至ヲ用井テ。胃痛。下利。疝痛ヲ治シ。

殊ニ虚弱ヨリ生スル所ノ白帶下ニ。和蘭ノ醫

別斯名越業淋屈同等太称用セリ。○服量ハ症

ニ隨テ始メ一二三錢ヨリ漸々増加スベシ

亞爾尼加イラドヘリ。○ベルグコロンコロイド蘭

和蘭ノ高阜砂地ニ生スル草ナリ。林氏之ヲア

ルニカ、モンタト云。花根共ニ藥用ニ供ス。○

花ハ黄色ノ細小花一蒂萼ニ聚列シ旋覆花ノ如ク味苦辛ニメ一種ノ氣アリ○根ハ蘆頭ヨリ一方ニ鬚根叢生シ長クメ筋條ノ如ク大ヤ鵝鬚管ノ如シ外面赭色心ハ白色味苦瀝微辛ニメ氣竄透刺戟ス○花ニハ間小蟲ノ卵若クハ窠アル者アリ之ヲ用ウレバ害アリ能ク撰用スベシ○花根共ニ猛ニ刺衝シ防腐解凝利尿發汗通經ノ效アリ就中花ハ揮發衝動ノ效多ク根ハ收瀉止腐ノ能優ナリ○花ハ一頓ニ之ヲ多服スルカ或ハ否サルモ知覺敏捷ノ人

ニ始メテ之ヲ用ウルハ惡心嘔吐煩燥悶乱頭痛心悸動等ノ諸症ヲ發ス
第一 間歇熱往昔亞兒尼加ヲ以テ此熱ニ烈效アリト稱シ貧家ノ幾那ト名クルニ至レリ然レ其效アル所以ヲ推スニ從來他藥ニ勝ルニアラス只此熱惡性ノ神經性或ハ腐敗性ヲ見ハスニ至リ幾那ニ伍用メ良效アルノミ
第二 神經熱神經熱ノ患者知覺遲鈍脉細痰眼昏濁淚ヲ含ミ肌膚乾燥メ枯瘦シ灼熱アリ舌苔粘膠ニメ昏昏嗜眠シ溶崩下利是亞兒尼加正症ナリ

發スル者ニ殊效アリ

第三腐敗熱ニメ上ノ諸症ヲ備フル者又偉效アリ

○然レ氏腐敗熱ノ初起ニハ屢彼此ノ貴器

殊ニ胃腸ノ焮衝ヲ兼併セル者アリ。注意セズ

ンバアルベカラズ。苟モ此症アル者ハ持亞爾

尼加ノミナラズ。自餘竄透衝動ノ劑ハ悉ク皆

害アリト知ルベシ。○腐敗熱ニハ花根ヲ伍用

スベシ。何者已ニ前説ノ如ク根ハ止腐固閉ノ

效多キヲ以テナリ。而メ尚其止腐ノ效ヲ扶シ

ト要セバ龍腦鑛酸等ヲ加フベシ。處府捏爾名



及ヒ獨乙ノ大學者名人輩此二品ヲ加用メ頻ニ治驗アルヲ稱セリ

第四神經性聖京名熱焮衝ノ期過了名後知覺遲鈍ノ諸症ヲ發スル者ニ效アリ

第五粘液熱粘液熱ハ大抵緩慢性ノ者ニメ其中

間神經性アル者ニ用井テ效アリ

第六假焮衝假焮衝粘液膜ニ著テ特ニ脱疽トナ

ラントスル者ニ宜シ故ニ腐敗性ノ假肺焮衝

及ヒ假胸膜焮衝或ハ産熱ノ終期或ハ産婦ノ

痛アル白腫ノ第三期ニ殊稱アリ

七第 下利 神經熱腐敗熱ノ下利知覺遲鈍ノ諸症ヲ兼發スル者又内臟虚憊メ知覺ヲ失フニ由テ下利綿々已マザル者加之粘液ノ分泌失常ヲ兼ル者ハ共ニ此根ヲ稱用ス

八第 慢性胃寒ノ咳嗽粘液性喘息ニ病共ニ多ク粘痰アリテ熱ナク肺臟虚衰シ尚且痙攣ノ模様アルニ由テ咯痰自由ナラザル者ニ良驗アリ

九第 慢性癱瘓麻質斯痛風ニ峻效アリ殊ニ之ニ由テ患部麻痺スル者ニ奇效アリ

十第 麻痺中風癱瘓麻質斯病等ノ後淹滯スル四肢ノ麻痺熏障眼膀胱ノ括約筋麻痺スルニ由テ生スル小便失禁等ニ良ナリ○哥縷斯更私ガ藥性論ニ曰膀胱ノ痿弱ヨリ來ル小便閉ノ患者三人ニ亞兒尼加ヲ用井テ共ニ奇效ヲ得メリト

十一第 神經病癲癩搐搦急子宮病依利昆垚兒等ニ用井テ間良驗アリ

十二第 水腫亞爾尼加ハ頗ヨク水脈ニ趨リ其喻振機ヲ増進ス故ニ水脈管ノ運營衰弱スルニ由

テ生スル水腫ニ用井テ屢良效ヲ奏ス
第_三閉塞腹内諸臟頑固ノ閉塞及ヒ其閉塞ヨリ
發スル諸病ヲ治ス

第_四經閉子宮ノ衰弱或ハ官能遲怠ニ由テ發ス
ル經閉ニ宜シ

第_五外用止腐ノ效アルヲ以テ羯布羅ト伍用メ
寒脱疽ヲ治スルニ名譽アリ又醋燒酒等ニ配
用メ挫傷及ヒ血液皮下ニ漏溢スル者ヲ治ス
○諸ノ真炊衝血頭胸ニ輻湊スル者脉管神經
ノ知覺銳敏及ヒ運管大過胃ノ知覺銳敏或ハ

虚弱等ノ症ハ共ニ亞爾尼加ヲ用井テ害アリ

○根散劑ハ十五匁ヨリ三十匁至浸煎兩劑
半ヲ以テ浸或ハ煎メ八匁ヨリ十匁ノ液ヲ
取ル○花ノ散劑ハ用ウルヲ稀ナリ大約浸劑
トシ用ウ一錢ヨリ半匁ヲ以テ浸メ六匁ヨリ
八匁ノ液ヲ取ル

白芷 ラチキス、アンゲリカ、
エンゲリス、フアルトル、
カ、

今藥肆ニ鬻ク者ハアンゲリカアルカンゲリ
カノ根ナリ多ク歐羅巴ノ北地ニ産ス生メ二
年ナル者ヲ藥用トス其根長大ニメ枝朶ヲ分

干。黯赭色ナリ。味苦辛ニメ氣裂ク竄透シ。少シク麝香ノ臭アリ。○此根ヲ縱ニ割ケバ裏面ニ無數ノ小管アリ。管中黄色ノ護謨華爾斯アリテ充ツ。○神經熱腐敗熱。腸胃熱等。第一道淨潔ニメ精力沈衰。脉細疾軟ニメ震揚シ。眼昏濁舌乾黑。肌膚枯燥メ肌熱燔ガ如キ者。之ヲ要スルニ知覺遲鈍ノ諸徵陸續蜂起シ生カ逐次ニ沈衰スル者ニ用ウ。○方今此根ヲ用ウル者少ナシ如何トナレハ其效遠ク續草ニ優ルト雖殆ト攝爾扁答利亞ニ近キラ以テナリ。○往昔ハ

粘液性ノ肺臟聖京偃病經久ナル者。粘液性ノ喘息慢性癩麻質斯及ヒ癩麻質斯性ノ麻痺不遂。腸胃虚弱或ハ粘液鬱蓄ニ由テ生スル胃腸ノ慢性諸病ニ稱用シ。又一身虚憊或ハ一身運營遲怠スルニ由テ生ズル經閉ニハ通經劑トシ用ウ。又予ガ實驗ニ據レバ慢性病ニ之ヲ用ウルハ其功稍阿魏ニ類似ス。○浸劑ハ半弓ヲ以テ浸メ六弓ヨリ八弓ノ液ヲトル
胡椒 ピペル、ニグリスム、バグワルテペル、
胡椒 ピペル、アルビム、イッテペル、
林氏ノ所謂ピペル、ニグリスムト云藤本灌木ノ

本草綱目卷五

實ナリ。此樹瓜哇。蘇門答刺其他東印度ノ諸國
 二生ス。○黑白二種アリ。其黒椒ト稱スル者ハ
 實未タ熟セサルキニ方テ採収シ。日ニ晒シ乾
 ス者ナリ。其白椒ト稱スル者ハ。實ヨク熟シ外
 殻解脫シテ後採収スル者ナリ。○黑白二種共
 二氣味辛温香竄ナリ。○健胃驅風ノ效アリ。又
 嚏藥トナシ用ウルニ良ナリ。又往時間歇熱ニ
 賞用セリ。

○必百力捏カクシ 往昔蛤彪斯カクシ 既ニ胡椒黒色中ニ
 亞的爾油ト混シタル稜爾撒謨様ノ華爾斯ア

ルヲ發明セリ。此乃胡椒ノ辛味ト病ヲ療スル
 效分ナリ。○李盧列室爾カクシ 葛賢カクシ 同ノ西家幾
 那ニ解熱ノ效アル元素按規尼捏ヲ發明セシ
 后鳥爾私捏カクシ 捏カクシ 燒酒ト配合メ已ニ又シク家
 常藥トシ。間歇熱ニ用井シ。藥中ヨリシテ。又解
 熱ノ效アル元素ノ純粹ナル者ヲ得テ之ヲ必
 百力捏ト名ケント欲ス。然レト李盧列室兒カクシ
 葛賢カクシ 同ノ西家ハ。遂ニ此元素ヲ純精ニ得ル
 能ハス。○今世ニ至天。默里カクシ 名カクシ 憐兒カクシ 西泥カクシ 同別兒
 室尼カクシ 同篤列兒利カクシ 同西亞巴カクシ 同微德設兒カクシ 同等

家萬兒藥生論 卷五

諸君初メテ純精必百カ捏テ得タリ○碩學ノ
微徳設シ見君ハ住當時ハ私テ壻ニ住ス必百カ捏テ
又其必百カ捏テ製煉スル時其中ヨリ得ル所
ノ華爾私油性胡椒越幾斯エキクタラクテモ
レシノ及ヒ黑椒等ヲ以テ開歇熱ヲ療ス其驗
太偉ナルニ由テ竟ニ胡椒ハ是解熱ノ峻效
ルヲ確知セリ然レモ其效切實ナルハ幾那
及ハス○必百カ捏テ殊ニ消食機虚衰ヲ兼ル
者ニ殊效アリ然レモ腸胃ニ器械ノ缺損アル
者及ヒ粘液膜僅ニ刺衝ノ光景アルカ或ハ歛

衝ニ陥リ易キノ徴アル者ハ害アリ用ウベカ
ラズ○發熱時ニ在テハ必胡椒ヲ用ウルトラ
禁ズ而ルニ世間彼胡椒ノ家常藥乃燒酒ト配
ヲ以テ切ニ熱ノ發作時ニ用ウル者アリ慎マ
ザルベケンヤ○胡椒ハ細末トナシ亞羅比亞
護謨漿ヲ加ヘ丸トナス者尤服用ニ便ナルノ
劑トス服量大約一時若クハ一時半每三十分
ヨリ三十分ヲ用ウ○經驗ニ由テ之ヲ比較ス
ルニ必百カ捏テ及ヒ華爾私油性胡椒越幾私ハ
其解熱ノ效胡椒末ヨリモ切當ナラス○精製

必百力捏ハ其製煉太タ冗雜ナル故ニ直モ亦
 太タ貴ク而メ胡椒末ハ幾那ノ如キ織條ナク
 消化シ易シ之ヲ要スルニ総テ害ヲナス者ナ
 シ故ニ必百力涅遂ニ聲價ヲ得ルヲ能ハズ
 華澄茄^{ペル}○ス^キバ^ル羅^キベ^ル蘭^ペ
 胡椒ニ比スレバ辛温共ニ微久華爾斯分アル
 ヲ以テ多ク粘液膜ノ諸病ニ效アリ故ニ頭部
 咽喉氣管等ノ頑固ノ冒寒噴聲白帶下胃ニ起
 因スル頭眩暈等ヲ治ス殊ニ輓近ニ至ッテハ
 革老福爾多^ラホ^ルト^ス名^人鴛私東^コ同^ト拔爾篤列德^バ同^ト伯蘭得^ラ

同亞答母斯^ア同^ス其他諸厄利亞^ア名^国佛郎西^フ同^ス獨^ド己^コ
 同等ノ諸醫皆之ヲ以テ痲病ノ妙劑トシ稱用
 ス○此物ハ胃腸ヲ刺戟スト雖醫家之ヲ痲病
 ノ第一期ニ用井テ絶テ其害アルヲ見ス予モ
 亦初發ノ痲病膿液多ク淋流シ来レバ消慮不
 得ニ直チニ之ヲ投シテ良驗ヲ得シト太タ多
 シ其淋膿多キヲ見テ而後之ヲ用ウルハ何ソ
 ヤ蓋シ實性焮衝ハ稽留一二日ニ過スメ輒減
 退ス膿液多ク流出スルハ是焮衝减退ノ徵ナ
 ルヲ以テナリ○散トナシ水若クハ舍利別ヲ

本草綱目卷五

ヨリニ乃至
 ○必孟答水アタラシク一弓ヨリ六弓ヲ以テ
 健胃ノ孟掘設爾ニ和シ與フ
 番椒ベベル○インヂキムベールスバールセベ
 林氏ノ所謂ガフシキム、アンニハノ實ナル
 莢實共ニ氣味辛熱香竄ナリ○消食機衰弱ニ
 風氣膨脹ヲ兼ル者、鼓脹、水腫、惡性咽喉、嗽衝等
 ヲ主治ス○和蘭ニ於テ日常多ク飲食ノ調理
 ニ聽用セル加印バール百亭兒ハ實ニ番椒末ヲ以
 テ製スル者ナリ○丸劑ハ六弓ヨリ十弓ニ至

幾ハ日ニ一錢ヨリ二錢至、含漱劑トメ一錢至
 ヲ取り、八弓ヨリ十二弓ノ液トス
 薑ガラヂキスシンドベリスス羅
 林氏ノ所謂アヒム、シレギベルノ根ナリ、一
 ニ之ヲシンギベルオヒシナリト云、東印度
 ニ産スル宿根草ナリ○形指大ノ結節ヲ堆簇
 スルガ如キ大扁塊ナリ、色淡黄ニメ微灰色ヲ
 帶ヒ、氣味辛温香竄ナリ○胃虛、食欲欠損、風氣
 腸胃ノ粘液積滯、鼓脹、痛風ノ胃虛ヲ兼ル者等
 ヲ治ス、又往昔ハ肺ノ聖藥、僞ノ終リニ至テ祛

痰劑トシ用ウ○含漱劑トメ懸壅垂扁桃腺等
ノ弛緩ヲ強固シ口筋ノ麻痺ヲ治ス○散劑ハ
一ノヨリニ乃至○糖醃蜜漬トナシ多ク飲膳
ニ供シテ胃ノ消化ヲ扶ク○夫世ニ矢苟爾倍
苦劑ト稱スル者多クハ十字花ノ種類ニメ其
辛温香竄ノ性效ハ共ニ胡椒姜等ノ属ナルヲ
以テ之ヲ此門ニ算収シ其尤ナル者ヲ以テ次
條ニ掲ク

沙羅蔔 ラパニニス、リスチカニス、
ペルペル、ラルテル蘭

林氏ノ所謂コクレアリアルモラシア根

ナリ此草多ク園圃ニ栽植シ又原野卑濕ノ地
ニ生ズ○根形長大圓クノ氷柱ノ如ク外面黄
色内面白色ニメ筋條アリ味苦ク氣烈ナリ

山薺菜 レコクレペル、アラリア、オスレナリス、
レラド蘭

山薺菜葉ハ形圓クメ厚ク光滑多液ニメ味太
辛辣竄透ス

碎米薺 ワナス、舌ル舌ム、アクク、チキム、
ワト、トルケルス、蘭

林氏之ヲ「シシ」ンブリユム、ナス舌ル舌ムト云
或ハ「ナス舌ル舌ム」オスレナト云、湟池水濕
ノ地ニ多ク生ス冬尚枯レズ大葉ノ形各齊ク

本草綱目卷五

ラズ、然レ氏小葉ハ形圓クメ心臟ノ如ク厚ク滑澤ニシテ液多ク味辛苦ニメ佳好ナリ生鮮ノ者ヲ藥トス

芥子

セミナ、シナペオス、スワルテ、モスマールド、サード蘭

○黒芥子

林氏ノ所謂シナピスニグラノ子ナリ形小圓ニメ黒ク味太辛ナリ○此者亞的爾様ノ辛油ヲ含ム試ニ芥子粗末ヲ取テ水ニ和スレバ油忽浮フナリ○往昔之ヲ以テ粘液病消食機怠慢舌痲等ニ多ク内用セリ

○白芥子

ゲシナ、ピス、アルバ、イッテ、オス、ゲシナ、ピス、タルド、サード

一名黄芥子ト云黒芥子ノ條ニ説ク所ノ諸病ニ効アリ然レ氏性力稍緩ナリ故ニ服量ハ二哥喜匙ヨリ三哥喜匙至○方今諸厄利亞^{ヨリ}ニ於テ消食機欠損腸胃粘膠痛風脚氣等ニ旦早白芥子^完粒一食匙ヲ與フト云

山芥菜碎米薺芥子ノ三種ハ或ハ單用シ或ハ合用メ共ニ矢苟爾倍苦及ビ其ヨリ發スル諸病ニ効アリ故ニ矢苟爾倍苦藥ノ名アリ○三種ノ製劑數法アリ今其有效通用ノ劑一二ヲ舉テ左ニ列ス

○
○
○

○山萸菜精クスピリ五ス。○山萸菜沙羅ゴ葛根ノ

二品ヲ以テ製ス。○孟僂メウ設爾セトル六弓中ニ此精半

錢ヨリ一錢半ヲ加フ。含漱劑ハ藥液八弓ヨリ

十二弓中ニ二錢ヨリ一弓ヲ加入ス

○複方山萸菜精クスピリ五ス。○ア多アタス。セリヒシア

是山萸菜ヲ君藥トシ。撒爾菲亞セアルフィア薄荷ハハ橙皮セウ肉豆

蔻等ヲ配スル者ニメ。太有效ノ劑ナリ。○每服

一食匙イチシキ或ハ二食匙ニシキ日ニ三次ニサン若クハ四次ニシ

○複方矢苟爾倍苦キク舍利別セリビルルビビチチキキスス○チチススピピココ

外矢苟爾倍苦キクニ效アル藥品ヲ多ク配合セル

佳味ノ製劑ナリ。○此劑一弓ニ外求半瓜ヨリ

一瓜ヲ加ヘテ又經久ノ儼毒ニ稱用ス。○日ニ

一弓ヨリ二弓ヲ服ス

○矢苟爾倍苦キク昆設爾弗コンセルハアンチススココルルビビチチカカ羅ラ

沙羅サラ葛カ三弓。山萸菜サン半比。碎米薺葉サン三弓

ヲ以テ白ニ入レ春テ泥トナシ。白糖二比半醋

六弓ヲ加ヘテ昆設爾弗トナス。○日ニ一二食

匙ヲ服ス

○矢苟爾倍苦舍利別コシリュビスアチキスチス

山蒼菜葉液 碎米薺液 沙羅蔔根擦姜子

○擦細スル者白糖十二 右四味研合シ

重湯煎ニテ水氣ヲ蒸散シテ舍利別ノ稠トナ

シ放冷ス○又

健質亞那一弓 幾那 茜草各半 右三

味ニ水滴宜ヲ加ヘ煮テ十二弓ノ液ヲトリ白

糖一匕半ヲ加ヘ水氣ヲ蒸散シ舍利別ノ稠ト

ナシ放冷シ上ノ舍利別ト合シ子細ニ研和調

勻シ用ウ○又外求一二弓ヲ加ヘテ經久ノ癰

毒ヲ治ス○四匙ヨリ八匙ヲ日服ス

○矢苟爾倍苦ヲ治スル藥草ノ生鮮者ヲ搗爛メ

琶布トナシ矢苟爾倍苦瘍及ヒ癰ニ用ウ○就

中沙羅蔔根黑芥子ノ二品ハ殊ニ引赤劑トナ

シ用ウ

家篤兒藥性論卷五終

家篤兒藥性論卷六

和蘭

漢臣 家篤兒 著

小倉

母沕 普勒歇 校補
洞海林疆健卿 譯補

鎮痙劑

カア
ランチ
パス
スチ
ルモ
チカ
羅
デ
ミ
ッ
テ
レン
蘭

大凡鎮痙劑ヲ處セント要セバ先其痙

學搐掣ノ由テ來ル所以ヲ精察セズン

バアルベカラズ是醫師此劑ヲ用ウル

ニ臨ンデ一大緊要ノ事タリ何者痙攣

搐掣ノ因實ニ汎然トメ多端ナルガ故
 ニ其藥品ニ至テモ亦一ヲ以テ之ヲ槩
 スルコトヲ得ザレバナリ。諭ヘバ良粘液
 脱亡シ、諸物直ニ其部ヲ觸動スルニ因
 難。起ル者ハ粘滑藥ニ宜シク、多血若ハ
 血液局處ニ輻湊鬱積スルニ因テ來ル
 者ハ刺絡若ハ局處ノ放血ヲ行ヒ、諸蟲
 ヨリ發スル者ハ殺蟲劑及ヒ下劑ヲ用
 井知覺銳敏若ハ刺衝大過ニ因ル者ハ
 麻醉藥ヲ與ヘ、筋肉虚弱ニ因ル者ハ保

固強壯。収斂藥ノ主治タルガ如シ。是故
 徒ニ此理ヲ執テ以テ悉皆鎮痙ノ効
 有ストセバ、則金石草木何物カ鎮痙
 藥ニアラザラン。然、世ニ以テ鎮痙
 藥ト稱スル所ノ者ハ、一異竄透衝動ノ
 性ニ麻酔ノ性アリテ、能ク痙攣搐掣ヲ鎮
 定スル者ニ就テ云ノミ。○既ニ上章ニ
 説ク所ノ如ク、一異竄透ノ香氣此香氣
植ニ物ニアル者ヲ以テ、鎮痙藥トセバ、
含蓄セリ夫鎮痙藥ハ、即是揮發衝動藥ノ類屬ナ

リト知ルヘシ。故ニ或ハ後人之ニ題ス
ルニ。芸香藥ノ名ヲ以テス。○之ヲ用ウ
ル所ノ諸症ハ。唯其鎮痙ノ名ヲ以テ推
知スルニ足レリ。○之ヲ用井テ害アル
所ノ諸症ハ。凡テ衝動藥ノ害アル諸症
就中多血。燄衝ノ如キ是ナリ

芸香

ヒダ、カラヘオレンス林氏

歐羅巴ノ南地ニ野生シ。吾和蘭ノ如キ北地ニ
在リテハ藥園ニ培植スルノミ。其本矮小ニメ
草ノ如キ小灌木ナリ。○生鮮ノ者ハ。氣味香竄

苦辛ニメ。一種ノ裂香アリ。又亞的兒油アリ。蒸
餾メ之ヲ取ル。黃褐色ニメ能ク水ニ溶化ス。是
芸香ノ効分ナリ。○刺戟鎮痙ノ効アリ。此効持
ニ善ク子宮ニ達ス。故ニ痙攣ニ因テ發スル所
ノ經閉ニ。通經藥トシ用井。テ驗アリ。○子宮病
神經頭痛。癩癩等ニ用井。又驅風劑トシ用井。テ
効アリ。○生鮮ノ者ヲ以テ小兒ノ搐搦ニ用ウ
ル法。世ノ普ク知ル所ナリ。其法芸香ヲ取テ。努
メテ患者ノ近傍ニ置キ。患者ヲメ其裂臭ヲ嗅
カシメ。以テ搐搦ヲ鎮靖ス。○内服ニハ水浸劑

或ハ水酒各半浸ヲ用ウ。其方芸香半弓ヨリ二
弓ヲ以テ浸ノハ弓ヨリ十二弓ノ液ヲ取ル○
外用ハ藥囊蒸濕浴湯ノ諸劑トナシ。經久ノ寒
腫麻痺不遂視力乏弱等ニ用ウ

○芸香油オレウム 二滴ヨリ五滴至白糖ニ

和シ服ス○又蟻蟲ヲ治スル灌腸劑ニ加ヘ用

○芸香水アタロ 一弓ヨリ四弓尚多量ニ

至ル鎮痙孟屈設爾ニ加ヘ用ウ

○芸香醋アタロ 多く嗅藥洗滌劑トメ子

宮病ノ諸症。眩暈卒倒等ニ外用ス

艾アルテミシア ○ベシベシ フフ トト スス ○ヤヤ シシ スス ココ ロロ イイ ドド 蘭蘭

多ク和蘭ニ産ス根ヲ藥用トス○往昔此根ヲ

以テ鎮痙通經ノ効アリトシ。其後久シク廢棄

シテ復其能ヲ云者ナシ。近世ニ至ルニ及ンテ

彪爾答布ビウエルダフ 名ナル者。癩癩ノ一良藥トシ稱用セ

シヨリ以來其名再世ニ顯ハレタリ○根ヲ採

ルハ。毎年春月末萌芽ヲ生セザル前或ハ十月

交ニ劊リ採リ土砂ヲ去リ。適宜ノ火ニ煨リ。注

壘ニ入レ。固封シ貯フ。經年ノ者ハ効力脱ス。用
ウルニ堪ヘズ。故ニ毎年新収スルヲ要ス。○此
ヲ用ウルニ臨ンデ。特ニ注意スベキハ。月經將
ニ来ントスルカ。真炷衝ノ光景アル者ノ二ツニ
。其他ハ消慮ヲ要セズ。若シ此二症アルヲ見
バ。用ウルヲナカレ。○艾根ヲ用ウルニ宜キ期
ハ。癩癩發セントスルノ前ニアリ。然レ其發作
定期チクメ。前知スベカラザル者ハ。發後直ニ
之ヲ用ウベシ。○艾根新末半錢ヨリ一錢至患
者ノ年紀ニ隨ヒ。微温ノ稀麥酒ヲ以テ送下ス。

服後脚温覆シ。又微温ノ麥酒ヲ喫シ。勉メテ汗
ヲ發スベシ。但熱性飲料及ビ心思勞動ヲ禁ス。
○此ヲ用井テ效ヲ奏スル者ハ。長服ヲ要セス。
發作未全ク休マザル者ハ。漸ク其量ヲ增加メ。
長服セシメ。以テ其轉變如何ヲ見ルベシ。○頑
固ノ癩癩ニ之ヲ用井テ。速ニ奇効ヲ獲ルヲア
リ。或ハ甚頑固ナラザルモ。之ヲ用井テ寸効ヲ
見ズ。或ハ却テ害ヲ為スノアリ。是ニ由テ之ヲ
觀レバ。艾根ヲ用井テ癩癩ヲ治スルハ。一モ其
標準トスベキ者ナシ。然レ其症甚經久ナラス。

意識ノ勞動ナク。或ハ腦中局處ノ疾患ニ因ル
テナク。發作間少頃ニノ。必ス期限ヲ紊サズ。頻々
發シ來ル者。或ハ十二歳ヨリ十五歳至ノ處女。
天癸方纔テ至ラントスル時發スル者。或ハ虫
蟲ヨリ發スル者ニ殊ニ效アリトス。○老大ノ
人及ビ其症夜間ニ發スル者ニハ効アルテ少
シ。又諸斯の瀾草ノ醫的私僧ノ經驗說ニ曰ク。
夫身体ノ諸器諸系。癩癩ノ為ニ平均ノ度ヲ得
ル者ハ。病ト雖患者ノ為ニハ。一日モ缺ベカラ
サル要物ナリ。故ニ剗地ニ之ヲ治スル氏ハ。却

テ身体其度ヲ失ヒ。大害ヲ致ス。鮮カラズ。如
是ノ症ハ。艾根用ウベカラス。○碩學ノ須兒滿
名曰ク。許多ノ心機ヲ勞費スルニ囚テ。劇甚ナ
ル吃逆ヲ發シ。諸藥毫モ効ナキ者ニ。艾根最良
ナリ。○碩學ノ轉兒德兒荊幾ハ。此根ヲ以テ通
經藥トシ。屢良効ヲ獲タリト云。○微都舎兒氏
及ビ余ハ。乾艾葉ノ煎汁或ハ生艾葉ノ絞汁ヲ
用井テ。解熱ノ一良藥タルヲ發明シ。屢試用ノ
奇驗ヲ得タリ。余ハ殊ニ之ヲ以テ亞爾鮮ノ如
ク。善後ノ調理劑トシ。用井テ毎ニ偉效アルヲ

見ル

纈草ラデキス。ハレリアナ。フルテル蘭

纈草數種アリ。一ヲ「ハレリアナ。ペウ」一ヲ「ハレリアナ。セルチカ」一ヲ「ハレリアナ。デオイカ」一ヲ「ハレリアナ。オフィンナリス」一名「ハレリアナ。シルベス」ト云。就中「ハレリアナ。オフィンナリス」効力最烈ナリ。故ニ多ク藥用ニ供ス。○山岡高燥ノ地。林麓卑濕泥澤等。所在皆生スル所ノ宿根草ナリ。根ヲ藥用トス。春夏ノ間。屬採スベシ。茶褐色ノ鬚根無數。蘆頭ヲ回抱メ生ス。

氣猫尿ノ如ク。味不佳ニメ辛苦。○纈草最秀ノ効分ハ。其揮發酸ニ在リ。之ヲ纈草酸ト名ク。此酸善ク疾ヲ受ル所ノ神經ニ走リテ捷効ヲ奏スルナリ。○纈草ハ實ニ慢性熱性ノ神經病神經端のニ其病ヲ感受セルハ固ヨリ論ナシ。他系ノ疾故ヨリメ連累セル者モ亦用井テ偉効ナル揮發衝動鎮痙藥中ノ一奇藥タリ。神經熱腸胃性。聖京偃性。癩麻質斯性。等ノ神經熱或ハ瘡疹發斑。聚ヲ兼發スル所ノ神經熱等。生力沈衰シ。脉細疾搐々トメ次序ナク。呼吸短

促煩悶呻吟。肌膚乾燥蒼白ニメ冷ヲ覺ヘ。或ハ
喃喃獨語筋惕肉瞤撮空摸床。其他諸筋搐動シ
或ハ眼中黯濁ニメ物ヲ見ズ。口半開シ。舌上乾
燥。燥黒ニシテ震顫シ。發疹ノ微アル者ニ殊効
アリ。○揮發衝動發汗鎮痙防腐劑譬ヘバ攝爾
扁太里亞龍腦幾那ノ類宜ニ適フテ加ヘ用ウ
ベシ。○古今ノ諸醫熱病ヲ療スルニ纈草ヲ以
テ峻効アル者トシ。甚之ヲ尊崇セリ。然レ余之
ヲ歷驗スルニ諸家ノ尊崇セルカ如キ偉効ヲ
見ルト稀ナリ。○纈草ハ巴ニ古今ノ諸家此ノ

如ク尊崇スト雖其發汗ノ能ハ民臣列利精攝
爾扁太里亞ニ及バス。止腐解熱ノ効ハ幾那ニ
劣レリ

慢性神經病往昔纈草ヲ以テ癩癩ノ奇藥トセ
リ。故ニ纈草ヲ用井テ癒ザル癩癩ハ終ニ不治
ノ症ト論定スル者アリト雖病太經久ナラザ
ルカ或ハ神經真ニ衰弱スルカ或ハ蛔蟲ニ因
テ發スル者ニノミ効ヲ奏スベシ。然レ以上ノ
三症ニ用ウルハ共ニ艾根ヲ優レリトス。○舞
踏病子宮病依利昆垓兒神經頭痛胃瘰瘵不遂

包社名國ニ産スル宿根草ノ根四年ヲ經タル者
ヲ鑽刻メ得ル乳様液ノ凝固セル者ナリ。林氏
此草ヲベムラアサフーチダト云○塊大ニメ
圓ク或ハ四角ナリ粘凝ニメ殆ド蠟ノ如ク指
ニ拈メ脂油ノ如キヲ覺エ其質ハ淡黄色或ハ
玫瑰花色ニメ莖花色或ハ白色ニメ扁桃仁ノ
如キ淚斑ヲ交フ氣大蒜ノ如ク酷不佳ニメ嘔
スベク味苦辛ナリ○水ヲ加ヘテ之ヲ研磨ス
レバ八九分ハ溶解ス乳汁ノ如キ粘液トナル
○衝動鎮痙解凝殺蟲通經ノ偉効アリ故ニ殊

ニ運行遲慢ノ粘液質ノ者ニ用井テ良ナリ多
血衝動質ノ人モ亦用井ザルニアラスト雖粘
液質ノ適應スルガ如キニアラス但々衝ノ微
アル者熱ノ景況著シキ者ハ用井テ害アリ
神經熱阿魏ハ其性温熱ナルガ故ニ最注意メ
用井ザレバ害ヲ生シ易シ○腸管ノ知覺機大
過ニメ劇甚ノ攣痛ヲ發スル者ニ灌腸劑トシ
用井テ緊要ノ者タリ然レ其痛熾衝若クハ腸
胃汚物等ヨリ發スル者ニハ害アリ子細ニ檢
査スベシ

經久緩慢胸病瘵癯性或ハ粘液性ノ胸病太經
久緩慢ニメ肺中ニ眞焮衝或ハ隱伏焮衝或ハ
大ナル結節腫或ハ膿ノ鬱蓄等ナキ者ニ良効
アリ○諸種ノ喘息及ビ百日咳ノ一良藥タリ
又世ニ所謂蜜爾刺兒喘息病ニ太稱用ス
腹内諸臟ノ慢性病内臟ノ慢性諸病殊ニ其癯
急ヲ兼ル者ノ一良藥タリ故ニ癯急症胃瘵ニ
佳ナリ又消食機萎弱其因酸敗液若ハ粘液ニ
アリテ風氣膨脹ヲ兼發スル者ニハ殊ニ牛胆
大黃等ヲ加ヘ用井テ太良ナリ又鼓脹ニ用井

テ太良驗アリ○解凝ノ効アルヲ以テ能胆液
分泌ノ諸器門脉其他内臟及ビ腺ノ閉塞ヲ開
達疏解ス故ニ黃疸水腫諸厄利設病萎黃病子
宮病依剥昆垤兒經久緩慢ノ下利等ノ如キ壅
閉ヨリ生スル諸病ニ皆効アリ
殺蟲殺蟲ノ効アリ特ニ蟲ニ由テ發スル神經
諸症論ヘバ舞蹈病癩癩等ヲ治スルニ驗アリ
然ルニ阿魏ヲ用井テ却テ神經諸症ヲ劇發ス
ル者アリ是蟲大ニ阿魏ノ為ニ迫切擾亂セラ
ルニ由テ發スル者タリ故ニ此騷擾ナカラ

シメンガ為ニ緩甘ノ乳劑ヲ加ヘ用ウルヲ要ス

通經 攣急ニ兼テ腹部ノ壅閉ヲ夾ムニ由テ月經不順或ハ經閉ヲ致ス者ハ阿魏ヲ用井テ其攣急ヲ鎮靜シ其壅閉ヲ開達スレバ則テ治ス○上説ノ如ク經閉ノ原由攣急ヨリ来ルヘ已ニ明著ナリト雖局處ノ焮衝若クハ腹部ニ血液ノ蓄積スル者熱ノ景況アル者等ハ用井テ害アリ

腐骨疽 瘰癧質ノ腐骨疽應度多倫多倫ハ腐骨

疽ノ類ナリ腐骨疽ハ病毒外部ヨリ骨質ニ滲淫骨片腐脱ス應度多倫ハ病毒骨節端ニ襲及テ骨端焮腫膿潰ニ遂ニ外部ニ悪性ノ潰瘍等内外并ニ用井テ殊効ナリ

○阿魏ハ氣味不佳ナルヲ以テ人多ク嫌惡ス故ニ多ク丸劑トナシ十瓜ヨリ三十瓜以上ヲ用ウ或ハ乳劑トナスベシ○哇烏的兒私名阿魏ヲ用ウル一種ノ良法ヲ創シム其法半弓以上ノ阿魏ヲ水ニ溶シ綿布ヲ以テ之ヲ漉過スレバ阿魏ニ含ム所ノ華爾斯質滓渣トナリテ布上ニ滯留ス是ニ因テ阿魏ノ著シキ衝動性

品ハ微シク透瑩ナリ○鎮瘻解疑通經祛痰ノ効アリ故ニ子宮病依剥昆垤兒内臟壅閉殊ニ其壅閉粘液質ヨリ生スル者子宮ノ機關怠慢若クハ粘液閉滯ヨリ生スル經閉肺臟攣急ノ感動ニ因テ咯痰防碍セララル者胸腔内水液瀦溜及ヒ粘膠物蓄積ノ症アル者等ニ効アリ又或ハ慢性ノ僂麻質私痛風等ニ良ナリ○外用メ能ク寒腫膿腫腺腫等ヲ分解疏散ス○内服ス○外用ハ溶劑硬膏等トナシ用ウ

○瓦爾拔奴謨哥魯加胃母膏
散釀膿ノ一良硬膏タリ
予久シク之ヲ試用スルニ實ニ分解疏

羯布羅
○カムホラ
○カヒラ
○カヒラ

羯布羅ハ一種ノ樹脂ナリ此樹三種アリ一ラ林氏ラウリスカンホラ又ベルセアカンホルスフレングリド云日本ニ産スニラデリオブラノフスカンホラガエルト子リト云藤門答刺西北方海濱ニ産ス菩魯私羯布羅是ナリ三ヲチブテロカルヒスカンホラコーレブロー

キト云勃泥ニ産ス是ヲ勃泥羯布羅ト云又
歐羅巴ニ於テハ薄荷迷迭香捲埵兒等ヨリ龍
腦ノ如キ者ヲ取ル是ヲステアロフトト云
然レ之ヲ得ルノ量太少ナリ○羯布羅ヲ製ス
ルハ羯布羅樹ノ材片ヲ以テ鐵ノ蒸餾罐ニ入
レ淨水ヲ灌キ陶ノ蒸餾塊ヲ取リテ其中ニ藁
束ヲ挾ミ之ヲ蓋ヒ蒸餾スレバ羯布羅水氣ト
成ニ蒸升メ穀粒ノ如キ小塊ヲナシ藁束ニ附
着ス此粒黃灰色ニシテ精淨ナラス之ヲ粗製羯
布羅ト云カンホラコリュダ羅其精美ノ品ハ歐

邏巴諸洲殊ニ和蘭ノ都府諸私的兒覃ニ於テ
粗製羯布羅ヲ再製スル者ナリ○精製羯布羅ハ
其色雪白光澤アリ微透亮ニシテ脂ノ如ク其質
水ヨリ輕シ一種透竄ノ裂香アリ味始メハ微
シク舌ヲ燒カ如キ温ヲ覺エ後爽清ニシテ涼ナ
ル如ク且微苦ナリ○水ニ溶解セス故ニ水ニ
溶セント要セバ先亞羅比亞蘆母漿若クハ扁
桃仁若クハ雞子黃ニ研和シ而メ后水ヲ加フ
ベシ亞的兒油脂油燒酒亞的兒硫酸消酸等ニ
ハ能ク溶化ス然レ之ニ水ヲ加フレハ龍腦復

分レテニ物トナル○火ニ投メ能ク燃工暖ニ
遭テ能ク耗散ス○研末スルコト太難シ故ニ粉
末ト為サント要セバ白糖麻僞涅天亞殊ニ燒
酒ヲ滴和スベシ○上古ハ羯布羅ヲ寒性ノ品
トセリ是口中寒涼ノ味ヲ觸知スルヲ以テナ
リ然レ方今ハ天下皆概メ竄透衝動鎮瘕發汗
止腐ノ一良藥トス又一種消毒ノ妙効アリ○
羯布羅ハ疾トメ試用セザルコトナシト雖殊ニ
良効ヲ奏スルノ疾アリ其諸病ヲ掲テ左ニ列
ス

虚性神經熱及ヒ腐敗熱精力沈衰面色慘憺且
黧赤脈弱ニメ疾肌膚冷ニメ微ク濕鄭聲獨語
四支欲冷眼黯濁舌黑苔アル者ハ羯布羅屢偉
効ヲ奏ス然レ脈疾ニメ緊面色赤ク盈脹シ肌
膚枯燥シ舌乾燥メ患者狂躁スルノ間ハ羯布
羅害アリ用ウベカラス
焮衝熱焮衝熱ハ其焮衝已甚ナル間ハ羯布羅
害アリ然レ十分ノ放血ヲ行ヒ消焮劑ヲ與ウ
ルノ後精力一齊ニ沈衰シ脈細疾ニメ震惕シ
百般ノ神經症及ヒ鄭聲等ヲ將出シ來ル者ハ

是其正症ナリト雖尚謹慎メ之ヲ用ウベシ

腸胃熱膽液熱十分ノ排泄ヲ行フノ後腸胃ノ

穢物全ク去リ舌苔全ク消シ肌膚滋潤スト雖

惡臭粘膠ノ冷汗アル者殊ニ此熱腐敗性神經

性ニ轉移スルノ恐アル者ニ要藥タリ

聖京偃、**儂麻質**、**斯痛風**此等ノ諸病皆第一期發

時ニ於テ、**焮衝性**ノ諸症退カザルノ間ハ、**羯布**

羅ノ對証ニアラス。但疾既ニ一二ノ時期ヲ經

過シ、**皮膚痙攣**シ、**蒸氣**是カ為ニ發越スルヲ能

ハズ、**神經諸症**ヲ蜂起シ、或ハ衰弱ノ為ニ、良能

病毒ヲ分離スルノ力、足ラザル者ニ良効アリ

○肺心胃腸其他ノ諸部ニ病毒轉移スル者殊

ニ効アリ ○慢性ノ**儂麻質**私病ニ之ヲ用井テ、

屢驗ヲ見ルヲアリ ○腐敗熱或ハ**神經熱**ニ兼

發スル下利ハ、**羯布羅太**効アリ、然ルニ如此雄

偉ノ**羯布羅單**、**聖京偃**若クハ**儂麻質**私等ヨリ

發スル下利ニハ効ナク、或ハ害アリ ○**亞細**

亞霍亂其流行ノ始メニ於テ、**羯布羅太**稱譽ヲ

得タリ、然レ流行漸ク日ヲ經ル、後其稱譽稍

減メ始メ、如クナラス

瘡疹熱殊ニ痘瘡麻疹赤斑熱其熱神經性成ハ
 腐敗性ニ入瘡疹灰白成ハ青色成ハ一異惡色
 ヲ示シ肌膚蒼白ニ入冷脈細疾ニ入震惕シ成
 ハ非常ニ徐成ハ瘡疹一齊ニ發出セズ或ハ全
 ク發現セザル者ニ殊効アリ。又一旦發出スト
 雖復將ニ内陷セントスル者或ハ全ク内陷ス
 ル者或ハ其内陷ニ係テ危嶮ノ擣掣諸症ヲ發
 スル者ニ烈効アリ。○麻疹赤斑熱等ノ後發ス
 ル所ノ遺蘄病ニ奇驗アリ。然レ其熱時ニ在テ
 ハ之ヲ用ウルヲ禁ス。

慢性神經病及ヒ瘧病狂病依利昆垚鬼子宮
 病癲癩舞踏病百日咳瘧急慢性喘息其他神經
 諸病及ヒ瘧病ノ諸病ニ各自適當ノ藥劑ニ伍
 用メ間良効アリ。殊ニ其諸病瘡疹内陷若クハ
 陰部ノ觸知過甚ヨリ來ル者ハ最良ナリ
 陰具及ヒ泌尿器病陰莖勃起花風遺精小便淋
 痛尿閉尿血等就中芫菁腹眩ヨリ發スル尿血
 ニ殊稱アリ
 壞疽鵝布羅ニ止腐ノ妙効アルヲ予已ニ腐敗
 熱ニ於テ之ヲ詳説セリ。又爰ニ壞疽ニ用井テ

内外共ニ効アルヲ證シ。愈其止腐ノ誤ラザル
 ヲ確定ス。○壞疽ニ羯布羅ヲ投スレバ。其蔓延
 速ニ過ミ。死肉自ラ生肉ト離ル。蓋シ羯布羅ノ
 壞疽ヲ治スルハ。其衝動ノ性ヲ以テ。能ク疽際
 ノ生肉ヲ奮發シ。以テ腐肉ヲ分離ス。是ニ由テ
 之ヲ觀レバ。止腐ノ効モ亦ナキニアラザレド。
 衝動ノ効多キニ居ル

消毒芫菁麻酔性ノ植物。瀕劑等ノ毒ヲ制ス。○
 羯布羅ハ能ク芫菁ノ瞑眩ニ由テ發スル。泌尿
 諸器ノ病ヲ治ス。○阿芙蓉ヲ久服セシメハ。羯

布羅ヲ加テ。其麻醉ノ勢ヲ制スベシ。○水銀
 劑ヲ久服スレバ。唾腺頗ル之ニ感メ。動モスレ
 バ。流涎ヲ發ス。故ニ羯布羅ヲ伍用メ。努メテ其
 流涎ヲ防グベシ

○羯布羅ノ用量ハ。其人ノ年紀ト。其功效ヲ要
 スル標的ニ從ヒ。各差等アリ。乃チ一來ハ日ニ一
 匁ヨリ二匁至テ服シテ足レリトス。一去ハ半
 時若クハ一時毎ニ一匁ヨリ二匁至服スルヲ
 要ス。約メ之ヲ言ヘバ。一匁ヨリ六匁十匁至。其
 宜ニ從フテ日服ス。○方劑モ亦宜ニ從フテ之

ヲ權裁スルヲ猶用量ノ如シ。内用ニハ丸散乳劑。孟僣設爾及ヒ精液溶劑。亞的兒溶劑等。外用ニハ散劑。射注劑。灌腸劑。半錢至ヨリ含漱劑。ヨリ以上ヲ以テ粘塗擦藥。軟膏。硬膏等ノ如シ。

○羯布羅下幾チンキ至ス。ヒニカンホラ至ス。ロ

○羯布羅極末者 燒酒二十度者 右羯布羅ヲ以テ燒酒ニ溶ス。○神經熱。消耗熱等ニ生カラ活潑セシガ為ニ。洗滌劑ト為シ。外用シテ屢妙効アルヲ歴驗セリ。

○秋爾撒謨窩卜サポ。アロ。マ。チ。キ。ス。羅。ス。ペ。セ。レ。ト。フ。蘭。 侄兒托夫

白石鹼半ニ 迷迭香精一北 硝砂精一北

羯布羅各二錢 石四味調勻 ○當時儂麻質一

私痛ニ外用ス

麝香モスキュス 羅蘭通名 麝香ハ亞細亞ノ中部及ビ北地ニ産スル。麝獸ノ陰部近傍ニ在ル。小囊中ニ含蓄セル一種ノ物ナリ。○二種アリ。一ヲ東方産ト云。即東京按安南ニ出ツ。一ハ魯西亞國止白里同等ニ出ス。其東京ニ出ル者ヲ上好ノ品トス。囊ノ大縦横共ニ三十許。一方四ニメ一方ハ扁平。形處女ノ

本草綱目卷之十九

子宮ノ如ク茶褐色ノ短毛ヲ生ス其止百里ニ
出ル者ハ形楕圓ニメ一方尖リ灰白色ノ長毛
アリ○上好精潔ノ品ハ其質乾テ脂ノ如ク茶
褐帶赤色味辛苦ニメ酷竈透ノ一異香アリ試
ニ之ヲ咬咀シ若ハ小刀ヲ以テ磨碎スルニ土
砂ノ如キ者アルヲ覺エス火ニ投メ其質盡ク
燃エ僅少ノ灰ヲモ残ス一十シ○竈透衝動鎮
瘧發汗ノ効アリ

腐敗熱神經熱生力大ニ疲脱シ觸覺鈍呆鄭聲
脉細疾ニメ震惕シ呼吸短促ニメ且呻吟シ小

水清澄四肢厥冷肌膚乾燥シ冷粘汗出テ筋惕
肉瞤呃逆其他攣急搐掣ノ諸症ヲ備ル者及
分離ノ機將ニ動カントスレバ良能ノ力微ニ
メ振フ一能ハザル者ニ偉効アリ

瘡疹熱痘瘡麻疹赤斑熱等其熱神經性或ハ腐
敗性ニメ皮膚虛弱ナルカ若ハ攣急状ノ感動
ニ由テ瘡疹快發セザル者若ハ皮下ニ隱々々
ル者若ハ已ニ發メ復内陷スル者ニ用井テ驗
アリ

瘧瘵搐掣病瘧瘵搐掣ノ全身ニ發スル者或ハ

葛私多儂謨イベルグ
 魯西亞名國ノ北地及ヒ北亞墨利加ニ産スルカ
 ストルヒベルト名クル獸ノ肛門ト臍トノ間
 ニ二囊アリテ其囊中ニ含蓄スル一種ノ物ナ
 リ○味辛苦ニメテ其竄透ノ香氣アリ○止百
 里名國産一ニ魯西亞名國産ト名クル者ナ上品ト
 ス諸厄利亞名國産一ニ亞墨利加産ト名クル者
 ナ下品トス其上好ノ囊ハ形圓クメ硬ク之ヲ
 割斷スレバ中ニ肝臓色ノ物ト細膜筋條アリ
 醫用ニ供スルニハ此物最佳ナリトス○衝動

鎮瘕通經驅風ノ効アリ○葛私多儂謨ノ性効
 世醫各一定ノ説ナシ乙謨計爾名壽微兒物兒
 同托弗涅兒同亞列厄散篤兒同ノ諸家ハ共ニ
 之ヲ効カナキ者トシ自餘ノ輩ハ皆大ニ褒稱
 セリ然レ余ハ其説ニ雷同スルナシ唯古今
 之ヲ用ウルノ差等ヲ摺撫メ茲ニ贅スルノミ
 ○往昔ハ葛私多儂謨ヲ以テ鎮瘕ノ峻藥トシ
 殊ニ其因腹肚ニ在テ起ル瘕瘰諸病ニ用井輒
 近ニ至テハ諸家皆子宮病依剥昆垓兒呃逆心
 悸動胃瘕瘕瘰等ニ稱用シ又子宮ノ虚弱或

ハ、擧急等ニ因テ發スル經閉ニ稱用ス○散或

丸トナス、二ハヨリ十ハ至

○葛私多カス トレ ヲ 儂謨レハム 丁幾スチン キ 燒酒者八十度 右浸出スル

六日○十滴ヨリ四十滴至ヲ用ウ

琥珀シヨク 油及口琥珀シヨク 丁幾ノ二品ヲ以テ醫用ニ供

ス、共ニ鎮痙ノ峻効アリ、故ニ子宮病、癩癩其他

擦劑トシ、儂麻質レハム 斯痛ニ外用ス、又阿芙蓉ヲ加

へテ、胸上ニ摩擦シ百日咳ヲ治スルノ要藥ト

ス○殊ニ之ヲ以テ薰藥トシ、四肢就中足部ノ

儂麻質私及ヒ水腫ニ用ウ

加カ 耶布ヤフ 的デ 油カ オレヤ ヲム、カヤ ヲム 子チ 羅ラ

芳香精微ノ蒸餾油ナリ、往昔ハ此油ヲ

ウカ、レウカ、デンドロン 樹ヨリ得ルトス、然ル

ニ近世ニ至リテ此油ヲ得ル者ハ、メラレウカ、

カヤイ プチ、スミテ 樹ナルヲ詳明ス、此樹

ハ安貝イ 那ナ 名ト 潮泥ト 同ノ南地ニ多ク産スル灌木

ナリ○此樹ノ實葉モ亦之ヲ蒸餾スレバ、共ニ

シムル^テ勿レ。否^{サレ}バ其色變メ茶褐色トナ
 ル。○衝動鎮瘳發汗ノ効アリ。○神經諸症ヲ兼
 併スル間歇熱子宮病癩癩心悸動其他神經諸
 症ニ用ウ。○每服十滴ヨリ三十滴至葡萄酒其
 他適當ノ液ニ和服ス。日ニ三次
 亞^テ的^テ兒^リテ^レシ^ルヒ^ユキ^ス。○ア^リテ^レル^テル^蘭
 輕^ク清^ク稀^ク澄^クニ^シテ^ハ揮^テ發^スノ液ナリ故ニ大氣ニ觸
 ルレバ盡ク飛散ス。氣味甘ク舌心ニ徹シ。後爽
 涼ニメ透竄芳香ナリ

第一 諸熱病。生力太虚脱シ。脉不齊。疾ニメ且震

惕シ。皮膚蒼白乾燥緊張シテ。筋惕肉瞤。呃逆眩
 暈。其他多シ。神經諸症蜂起スル者ニ稱用ス。然
 脉緊實。肌熱灼カ如ク。譫語甚シク。呼吸器刺衝
 ノ景況アリテ。衰耗汗ヲ發セシトスルノ模様
 アル者ニハ害アリ用ウベク

第二 慢性神經病。即粘液中風。麻痺不遂。昏睡病
 癩癩卒倒。心悸動。其他子宮病家。依^レ剝^ク昆^テ垓^ル兒^ル家
 ニ發スル神經諸症ニ効アリ

第三 肚腹ノ攣急病。諭ハハ胃瘳攣急症。風氣症
 等ニ殊効アリ

第四 嗅藥トメ眩暈假死等ニ外用ス

第五 大ニ温素ト交カアリ故ニ清凉劑トメ腦

焮衝ニ外用メ偉稱アリ○腦焮衝ニ外用スル

ハ先髪ヲ剃リ去リ少量ノ亞的兒ヲ取テ徐々

ニ頭上ニ塗擦スヘシ然此法ニ比スレバ冷水

氷片ノ効負ニ優レリトス

第六 又前法ノ如ク外用メ箱頓腸墜内ニ遊離

シタル空氣ヲ含ム者ニ効アリ蓋空氣ヲ含ム

腸墜ニ之ヲ施セバ腸墜是ガ為ニ自家固有ノ

温即活物ヲ脱失シ其含蓄セル氣モ亦之ガ為

ニ温ヲ失メ稠厚トナリ竟ニ其突垂ノ部是ニ

ヨリテ縮収ノ機會ヲ得ルヲ屢之アリ然是モ

亦氷ヲ用ウルノ優レリトスルニハ如クス

第七 善ク諸藥ノ煦化ヲ助ケテ同質ノ物トナ

シ亦善ク諸藥ノ効ヲメ速ニ全體ニ布達セシ

ムルノ効アリ

○每次十滴ヨリ二十滴至水若ハ糖若ハ孟僣

設爾ニ和シ頻服ス或ハ孟僣設爾四弓ヨリ六

弓中ニ一弓ヨリ半錢至ヲ和シ与フ

○叟蘭度碎石劑ステル、ハン、ブレ、ケン、デ

亞的兒 三分 的列并油 二分 右二味 ○
每次二十滴ヨリ三十滴至朝夕ニ服ス ○膽ノ
結石ニ殊稱アリ然其效碎石ニアラスシテ多
ク鎮痙ニアリ

補 穆私薦醫學韻府呃逆門ニ曰麝香ハ呃
逆ノ良藥タリト雖時ニ其効ヲ見ザル一ア
リ然ニ予呃逆將ニ發セントスル前一二時
ニ左方ヲ頻々與ヘテ全其發動ヲ遏絶ス
奇效アリ ○治呃方 亞的兒半勺 右二
的列并底那油一錢

味調勻、小半時毎ニ二十滴ヨリ三十滴ヲ以
テ冷水ニ點服ス ○疆云此方ハ叟蘭度碎石
劑ノ方ト大同小異且予屢此方ヲ用井テ奇
効ヲ得ルト多シ故ニ此條下ニ附載ス
○忽布滿鎮痛液 リアキステル、シルヒリキス、アルコ
ホフマンス、ホフマン
ホフマンス、ドヒツマン
ホフマンス、ドヒツマン 右二味ヲ配製
スル液ナリ、清澄無色ニ揮發峻竄ノ佳香アリ
○主治、性効本條ニ同シト雖唯其氣力微ナ
ルノミ ○服量、本條ヨリ大ナルベシ、每次ニ

十滴ヨリ三十滴至水或ハ糖ニ和シ頻服ス或ハ孟屈設爾六弓ヨリ八弓至ニ一錢ヨリ二錢三錢至ヲ和シ與フ

硝石亞的兒リアレテサルニトリキウス○ナブタニト
甘硝石精スアレテロリテスニトリキウスアルコリキウス

ニ品共ニ性効同シ然レ臣甘硝石精ハ更ニ發汗利尿ハ効大故ニ發汗若ハ利尿スベキ症ニ於テ精力虛弱知覺機減衰ハ微アル者ハ發汗劑若ハ利尿劑中必之ヲ加ヘテ良効アリ○

二品共ニ每次二十滴ヨリ三十滴至水若ハ糖若ハ孟屈設爾ニ和シ頻服ス
暹亞的兒アレシテアルアセチキウス

輕清稀澄ノ液ナリ爽快活潑ノ佳香アリ味亞的兒ノ如シ○興奮鎮痙發汗ノ偉効アリ故ニ神經熱腐敗熱若ハ子宮病依剝昆垓兒等ノ傍症若ハ局處ノ痺麻質斯痛等内外共ニ用テ良ナリ○每次二十滴ヨリ四十滴至頻服ス若ハ一錢ヨリ三錢至孟屈設爾五弓ヨリ八弓至ニ和シ用ウ

硃砂精

レアムモニア、リキユイダ、アルモカリ、ホラキ、ヒ、カ、ル、ゲ、ヒ、ハ、パ、ラ、キ、ス、ア、ム、モ、ニ、ア、キ、キ、フ、リ、ユ、ス、ロ、ー、グ、ソ、ウ、ト、蘭

多、硃砂ヲ以テ之ヲ製ス、此液澄明揮發ニノ、酷、舌心ニ透徹シ、峻透裂竄ノ氣アリ○一種鹿角ヨリ製スル者アリ、効カハ些モ前種ニ劣ルナシ、但純潔澄明ナラザルノシ○皮表ニ之ヲ摩擦スレバ、即時劇痛ヲ發メ、竟ニ焮衝、皮膚剥脱ヲ致ス○内用ニ供スルノ太稀ナリ、縱令之ヲ用ウルモ極稀釋ノ後與フベシ、輒近此液ヲ急性亞細亞霍亂ニ用井テ、屢治驗ヲ見ルニア

リ、其法小半時若ハ半時毎ニ、十滴ヨリ十五滴至、又酒客中風ニ用井テ奇驗ヲ得タリ○外用ニハ他藥ト配伍メ擦劑トナシ、慢性ノ癩、麻質斯病乳結、疆、按、乳道壅閉シ、乳汁凝結シ、解散セト乳結等ニ用井、又嗅藥トシ、天眩暈卒仆ニ用

硃砂揮發膏

○サニメ、ン、モ、ホ、ラ、チ、レ、サ、ポ、ア、ム、モ、ニ、ア、ラ、シ、レ、襪列府油、新鮮者

調勻ス○又是ニ羯布羅ヲ加ヘ用ウ、論ハ硃砂加龍腦揮發膏、チレ、カン、ホ、ラ、ム、ノ、如、シ、又、頑

劑ヲ加ヘ用ウ。論ハマルモリアレ。シ子レニム
 膏ノ如シ。○經久慢性ノ焮衝ヲ分解シ。吸収機
 ヲ催進シ。諸液ノ鬱塞ヲ疏釋シ。疼痛ヲ止メ。瘰
 癧ヲ鎮ム。但シ痛瘰共ニ焮衝着ハ多血ヲ兼併セ
 ル者ニハ害アリ。又水脈ノ官能ヲ勸發シ。肌膚
 ノ觸知萎弱セルヲ挽回シ。局處ノ精カヲ活潑
 シ。一二貴要ノ部ヨリ妙ニ病毒ヲ誘發スル等
 ノ効アリ。

○硃砂加燒酒精ニス。ピリキス。サリス。アムモ
 硃砂精一弓。火酒二弓。右二味調勻。○奮

發衝動ノ藥劑トナシ外用ス

○硃砂加過泥子精。アマモニア。ア。リキ。イダ。ア。ニ。サ
 ル。ア。ニ。ア。キ。ア。ニ。サ。タ。○。ス。ピ。リ。キ。ス。サ。リ。ス。ア。ム
 硃砂精三弓。過泥子油半弓。燒酒者三十度
 右三味ヲ以テ製ス。○十滴ヨリ二十
 滴至。○虛性ノ肺臟粘液諸症ニ用井テ痰飲ヲ
 稀豁ス

○硃砂香竈精ニス。ピリキス。ア。ロ。マ。チ。キ。ユ
 白耳義局方ニ出ツ。枸櫞皮新鮮者
 桂皮。肉豆蔻。丁子。各二。硃砂一弓。製法

酒石鹽ニテ

燒酒ニテ

右七味硝子

ノ列篤爾多ニ入レ、浸出スルヲ二日ニメ、十四

ヲ蒸餾ス○服量四十滴ヨリ六十滴至

○硃砂華カリイボラチナス、アムモニア○アル

是硃砂ト炭素ト親和メナル者ナリ○急性亞

細亞霍亂ニ用井テ効アルト本條ノ如シ○十

ニ時中ニ一錢ヲ服ス○酸類加果食鹽石鹼等

ニ配伍スルヲ禁ス

○硃砂華精シブ、カ、ル、ボ、ナ、ス、ア、ム、モ、ニ、ア、リ、キ、ム、イ、ラ、ヘ、ル、ラ、チ、ス、ク、三十滴ヨリ六十滴

至水着ハ酒ニ和シ服ス○禁忌同前

○鹿角鹽ア、ニ、マ、レ、○、サ、ル、コ、ル、ニ、セ、ル、ヒ、ロ、散丸溶液トナス、一時毎ニ二匁ヨリ十匁至○

禁忌同前

○鹿角精マ、レ、カ、ル、ボ、ナ、ス、ア、ム、モ、ニ、ア、リ、キ、ム、イ、ラ、ヘ、ル、ラ、チ、ス、ク、每次二十滴ヨリ三十滴至水着ハ

酒ニ和シ頻服ス○禁忌同前

○鹿角精マ、レ、カ、ル、ボ、ナ、ス、ア、ム、モ、ニ、ア、リ、キ、ム、イ、ラ、ヘ、ル、ラ、チ、ス、ク、鹿角鹽 琥珀鹽 右二味ヲ

溶和セシム○二十滴ヨリ六十滴至○加里硫

酸。硝酸。鹽酸。磷酸。酒石酸。鏡鹽等ノ如キ者ヲ配伍スルヲ禁ス。○右件ノ數製劑共ニ刺戟衝動鎮瘧發汗ノ峻効アリ。故ニ熱性及ヒ慢性神經諸症。瘧瘵性ノ喘息。胸水病ニ續發スル瘧瘵胃瘧及瘧瘵性ノ腹痛等ヲ鎮定スルニ奇驗アリ。

毘斯密篤
 毘斯密篤ハ金石屬ナル硝酸ヲ以テ溶解スル製煉ヲ經ルニ非ザレバ藥用ニ供セズ。其製煉スル者ヲキシヂム。ビスミチ或ハマギステリム。ビスミチト云。鎮瘧藥トシ用井テ其効最

峻シ。○昔人已ニオキシヂム。ビスミチヲ以テ毘斯密篤金屬ノ純粹酸化トナス。然ニ輓近ノ舍密家ニ至テ。是ハ之少量ノ硝酸ヲ以テ酸化スル者ナルヲ發明セリ。ビスミチト云。ト故ニ白耳義藥局ニハ。次硝酸毘斯密篤ニトラス。ビスミチト名ク。○其因唯胃神經ノ知覺過敏ナルヨリ來ル胃瘧及ヒ瘧瘵性ノ嘔吐ニ謹慎メ之ヲ用ウレバ峻効アリ。○一時毎ニ半匁ヨリ一匁至阿芙蓉。砂糖。麻。偲。涅。天亞等ニ和シ與フ。間又已。一ナキノ地位ニ至リテハ。五匁至ヲ用

ウ○予積年歷試。驗スルニ胃瘵神經性ノ胃
部壓迫ノ二症ヲ根治スルニハ三四週ノ間
斯密答三瓜ヨリ四瓜至日ニ三四次與フルガ
如キ良藥アルヲ見ズ或ハ之ニ規尼捏ヲ加ヘ
用井テ更ニ佳ナリ此規尼捏ヲ伍スルノ方ハ
亦間歇熱ノ發作時ニ吐病或ハ胃瘵等ノ症ヲ
兼發スル者并ニ亞細亞霍亂ノ血液沸騰筋肉
奮起スル者ニ良效ヲ得是予積年經驗スル所
ナリ○子宮病依利昆垓兒月經將ニ來ラント
スル片瘵孳ヲ發スル者等ニ用井テ根治ノ一

良藥トス

亞鉛華フロレス、シンキ、オキシ、ゼハ、
是亞鉛ヲ燒テ製スル所ノ酸化亞鉛ナリ其質
潔白ニメ氣味共ニカク水ニ溶解セス○注意
メ少量ニ之ヲ用ウレバ鎮瘵ノ一峻藥タリ○
惡性稠密ノ痘瘡出齊怠慢若ハ順序ヲ失ヒ加
之昏冒譫言搖擲水瀉小便水ノ如キ諸症ヲ發
スル者ニ殊効アリ此症ハ痘瘡内陷若ハ蛔蟲
若ハ生齒等ノ諸因アリテ發スル者ナリ○百
日啖其他胸腔諸器瘵孳狀ノ感動ニ良ナリ○

亞鉛華

卷六

小兒生齒難澁或酸敗液或細蟲ニ由テ屢
 發スル搖擲ニ効アリ○亞鉛華ハ氣味共ニ無
 キ者ナルガ故ニ不分皂白ノ小兒ト雖能ク服
 用ス是ヲ以テ上件ノ小兒諸病ニ概用メ一良
 藥トス○散劑ヲ最良トス一匁ヨリ六匁十匁
 至ヲ糖或ハ麻俣涅矢亞等ニ和シ一時或ハ一
 時半毎ニ用ウ○點眼水トシ十匁ヨリ二十匁
 至ヲ液一匁ニ溶化ス又眼膏トナシ十匁ヨリ
 二十匁至ヲ脂二錢ニ和ス但阿芙蓉四匁ヨリ
 六匁至加ヘ用ウルモ可ナリ○輓近ニ至テ始

メテ青酸亞鉛銕キ、ト、レ、ル、シ、ハ、シ、ン、ヲ、以、テ、亞
 鉛華ニ代テ鎮痙劑トシ用ウ療瘳質ノ眼焮衝
 聖京倭性ノ眼焮衝等ニ三分匁ノ一ヨリ二匁
 マテ用ウル一日ニ數次○酸類酸化鹽酸味ノ
 植物等ヲ伍用スルヲ禁ス

硃銅礬シ、ル、ハ、ス、キ、フ、ロ、ア、ム、モ、ニ、ア、カ、ル、レ、
ル、シ、ム、ア、ム、モ、ニ、ア、カ、ル、レ、
 天藍色ノ芒ヲ結ビ臭氣ナク苛烈不佳ノ鑛味
 アリテ且収斂衝動ス○大量ニ服スレバ胃腸
 疼痛ヲ發シ終ニ劇キ嘔吐ヲ繼發ス○癩癩病

定集見藥性論 卷六

ニ殊稱アリ、而メ其患者年紀尚幼、身体嬌柔稟賦粘液質ニメ病因ハ筋纖維弛縱若ハ神經衰弱若ハ神經感觸シ易キ等ニ在テ病經久ナラザル者ニ諸家之ヲ用井テ多治驗アリト云、又舞蹈病ニ用テ予此病ニ之ヲ用井テ屢良効ヲ見タリ○散丸溶液トナシ半匁ヨリ一匁至頻服ス服量漸々大ナルニ至レバ惡心ヲ發スル一アリト雖絶テ嘔吐ヲナスニ至ラス○加里酸類等ヲ伍用スルヲ禁ス

補 格倔林名スルヲ禁ス 銅礮鹽酸水アリキモニアルキプルモニアトシ

越エ而實吉醫事日札ニ曰格倔林ノ銅礮鹽酸水ハ消食機ノ衰弱乳糜製造ノ障碍ヨリ生スル諸病ニ卓效アリ故ニ腹部ノ疾ヨリ發スル諸厄利病ニ殊效ノ良藥トス又癩毒瘰癧惡性癩癧毒疣ニ稱用シ古人ハ癩癧勞瘵ニ稱用ス○格倔林水ノ服量稍大ナレハ惡心嘔吐ヲ發シ易キヲ以テ小兒ニ与フルニハ五ノ方最穩當ナリトス○方

銅礮鹽酸水 一匁 白糖丁幾 一錢

默栗薩水七弓

右三味調勻シ每午每

晚食後小半時ヲ經テ一食匙ヲ与フ○大人

ニハ格倨林水半錢ヨリ一錢至ヲ水液五弓

ニ和シ白糖丁幾少許ヲ加フルヲ宜トス用

法ハ前ニ同シ○小兒藥液ノ大量ヲ惡ムカ

或ハ消食器ノ刺衝機過大ニノ頻々小量ニ

分服スルヲ要スル者ハ左ノ方ヲ撰用スヘ

シ○方 銅礮鹽酸水一刀 橙花水三錢

白糖丁幾八滴 右三味調勻シ每服六

滴ヨリ十二滴二十滴至ヲ白糖ニ和シ午晚

ニ服ス○大人格倨林液ヲ服スレハ屢陰部

ニ刺衝ヲ發シ夜間遺精ヲナスコアリ

註 格倨林初製ノ銅礮鹽酸水ハ新藥局

ノ方ニ比スレハ銅ヲ含ムコ少シ其製法

銅揮發丁幾四弓○銅屑ヲ礮砂

右丁幾ノ内ニ鹽酸ヲ點加スルコ十分飽

和ノ度ニ至レハ銅丁幾ノ縹色忽チ變メ

綠色ノ澄液トナル○白糖丁幾製法ハ

ブランデソイツルヲ火酒ニ漬シ日温ニ

テ溶解ス疆按白糖丁幾ハ白糖ヲ水ニ溶

